

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]
(平成 30 年3月解析分)

1 今月のトピックス

(1) マダニ等による感染症に注意しましょう！！

マダニやツツガムシの活動が活発になる春から秋にかけて、マダニ等が媒介する感染症が多く発生しています。農作業やレジャーなどで、草むらや藪に入るときには、長袖、長ズボンの着用、忌避剤の使用等によりマダニ等に咬まれないよう注意しましょう。

マダニ等が媒介する感染症に関する、潜伏期間や症状の特徴等については次表のとおりです。



フタトゲチマダニ

疾病名	潜伏期間	症 状		発生状況	
		初期症状	特 徴	H28 年	H29 年
重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	6～14 日		消化器症状：食欲不振、嘔気、嘔吐、腹痛、下痢、下血 その他の症状：頭痛、筋肉痛、神経症状（意識障害、けいれん、こん睡）、リンパ節腫脹、呼吸器症状（咳など）、出血症状（紫斑）	3	5
日本紅斑熱	2～8 日	倦怠感 悪寒 急な発熱 (38～40℃)	発疹：発熱の後にやや遅れて、四肢や体幹部に米粒大や小豆大の紅斑（痛み・かゆみはないが手のひらにも出現） 刺し口：腹部や背部、外陰部、大腿部など隠れた部分にある場合が多い（「かさぶた」を形成するが、ツツガムシの刺し口ほど大きくない）	36	69
つつが虫病	5～14 日		発疹：発熱後、顔面や体幹部に米粒大の紅斑（痛み・かゆみはない） 刺し口：臀部、外陰部、大腿部や腹部など、皮膚の柔らかい隠れた部分にある場合が多い（特徴的な「かさぶた」を形成）	39	39

詳しい情報は、広島県のホームページをご覧ください。



広島県 マダニ

検索

(2) 梅毒について

近年、全国的に梅毒の報告患者数が増加傾向にあります。

広島県においても、平成 29 年の報告患者数は 138 人となり、対 28 年比で 2.8 倍、対 27 年比では 6.2 倍と急激に増加しています。

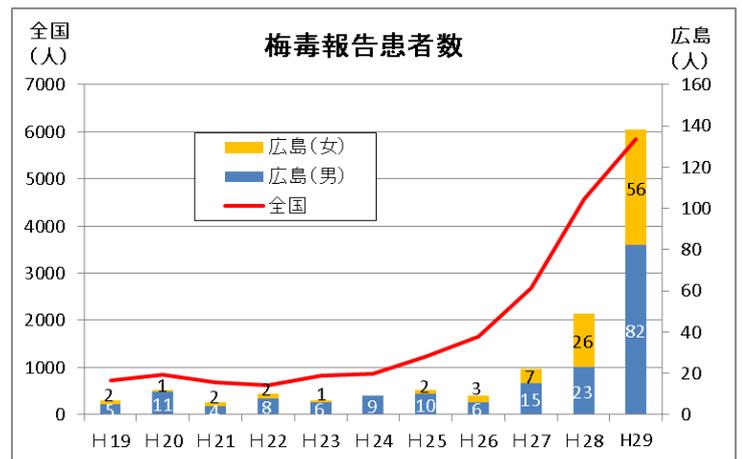
また、平成 30 年も 2 月末現在、県内の報告患者数は 27 人に上っています。

梅毒は、主に性的接触によってうつる感染症です。原因は、梅毒トレポネーマという病原菌で、粘膜や皮膚の小さな傷から侵入して感染します。

陰部に潰瘍ができたり、リンパ節の腫れ、全身の発疹等の症状を呈します。進行すると、脳や心臓にも症状が出る場合があります。また梅毒に罹患している方が妊娠すると、早産や死産になったり、胎児に重篤な異常をきたす場合があります。

感染が疑われる症状が見られた場合には、早期に医師の診断、治療を受けましょう。

なお、コンドームの適切な使用によりリスクを減らすことができます。また、一度治っても再び感染することがあるので、パートナーと一緒に検査・治療しましょう。



詳しい情報は、厚生労働省のホームページをご覧ください。



梅毒 Q&A

検索

2 疾患別定点情報 【速報値】

(1) 定点把握(週報)五類感染症

平成30年2月分(平成30年2月5日～平成30年3月4日:4週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	11,242	24.49	23.12	↘	10	ヘルパンギーナ	4	0.01	0.02	
2	RSウイルス感染症	102	0.35	0.43	→	11	流行性耳下腺炎	18	0.06	0.37	↘
3	咽頭結膜熱	90	0.31	0.54	↘	12	急性出血性結膜炎	1	0.01	0.01	
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	730	2.53	2.09	↗	13	流行性角結膜炎	44	0.58	0.54	→
5	感染性胃腸炎	2,407	8.36	7.54	↗	14	細菌性髄膜炎	0	0.00	0.01	
6	水痘	50	0.17	0.59	↘	15	無菌性髄膜炎	0	0.00	0.01	
7	手足口病	32	0.11	0.16	↘	16	マイコプラズマ肺炎	1	0.01	0.17	
8	伝染性紅斑	5	0.02	0.21		17	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	
9	突発性発しん	72	0.25	0.39	→	18	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	83	0.99	—	↑

(2) 定点把握(月報)五類感染症

平成30年2月分(2月1日～2月28日)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
19	性器クラミジア感染症	47	2.24	2.30	↗	23	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	81	3.86	3.97	↗
20	性器ヘルペスウイルス感染症	12	0.57	0.70	→	24	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	3	0.14	0.46	
21	尖圭コンジローマ	10	0.48	0.81	↘	25	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0.00	0.03	
22	淋菌感染症	18	0.86	0.91	↗						

※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当たり)

※報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

※感染性胃腸炎(ロタウイルス)は、平成25年10月14日から届出対象となったため、過去5年平均データはありません。

※百日咳は平成30年1月1日より全数報告に変更になりました。

発生記号(前月と比較)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↗	↘	1:1.5～2の増減
微増減	↗	↘	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

急増減疾患!!(定点当たり前月比2倍以上増減)

- 急増疾患 感染性胃腸炎(ロタウイルス) (0.19 → 0.99)
- 急減疾患 なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象18疾患,月報対象7疾患)について、県内177の定点医療機関からの報告を集計し、作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～11	12, 13	19～22	14～18, 23～25	
定点数	43	72	19	21	21	176

3 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

【速報値】

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	39	結核(39)〔西部保健所(6),西部東保健所(4),東部保健所(5),広島市保健所(13),呉市保健所(6),福山市保健所(5)〕
三類	3	細菌性赤痢(1)〔福山市保健所(1)〕, 腸管出血性大腸菌感染症(2)〔東部保健所(2)〕
四類	4	A型肝炎(1)〔東部保健所(1)〕, レジオネラ症(3)〔東部保健所(2),呉市保健所(1)〕
五類全数	37	アメーバ赤痢(2)〔西部東保健所(1),呉市保健所(1)〕, ウイルス性肝炎(E型,A型除く)(1)〔広島市保健所(1)〕, カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症(2)〔西部東保健所(1),広島市保健所(1)〕, クロイツフェルト・ヤコブ病(1)〔広島市保健所(1)〕, 急性脳炎(2)〔広島市保健所(1),福山市保健所(1)〕, 後天性免疫不全症候群(3)〔西部東保健所(1),広島市保健所(2)〕, 侵襲性肺炎球菌感染症(2)〔東部保健所(1),広島市保健所(1)〕, 水痘(入院例)(5)〔西部保健所(1),福山市保健所(4)〕, 梅毒(14)〔広島市保健所(10),福山市保健所(4)〕, 百日咳(5)〔西部保健所(1),西部東保健所(1),広島市保健所(1),呉市保健所(1),福山市保健所(1)〕